

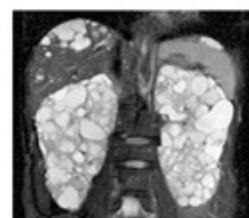
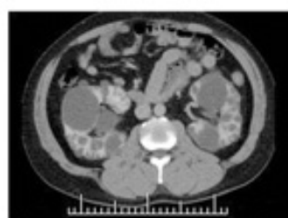
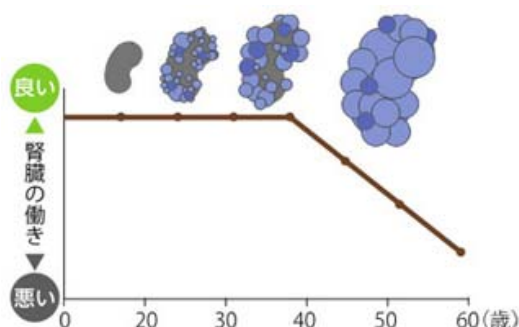
# 近畿大学医学部奈良病院腎臓内科 多発性嚢胞腎外来

常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)は遺伝性腎疾患の中で最も多く、3000～7000人に1人が罹患していると言われています。これまでは有効な治療法が少なく、60歳までに約半数が末期腎不全になっていました。さらに、本疾患は腎嚢胞だけでなく肝嚢胞、脳動脈瘤、心臓弁膜症なども合併することが知られています。

2014年4月にトルバプタン（サムスカ®）が腎嚢胞拡大の進行を抑制する薬として承認されました。さらに、2015年1月から、ADPKDは難病医療助成制度の対象疾患となり、患者さんの医療費負担軽減が可能になりました。

当科では腎機能や合併症の検査を行うとともに難病認定を希望される患者さんには申請のお手伝いをし、トルバプタン（サムスカ®）による治療を行います。本薬は登録医のみが処方できますが、本院腎臓内科の医師は登録済みです。また、実際に治療を開始する際には、数日間の入院が必要です。

腎不全、高血圧、くも膜下出血などの家族歴を有する方、また既にADPKDと診断されている患者さんの親、子、きょうだい等、本疾患の疑いがある患者さんがおられましたら本院腎臓内科をご紹介いただければ幸いです。



ADPKD.JP [www.adpkd.jp](http://www.adpkd.jp)より転載

近畿大学医学部奈良病院 腎臓内科

患者支援センター 電話 0743-77-0880 内線2050  
Fax 0743-77-0902